

# 一般質問

この定例会では、議案や市政全般について、23人の議員が一般質問を行い、活発な議論を展開しました。

その概要は、次のとおりです。

(一)内には、各会派等からの質問申し出時間を記載しています。

| 会派名など | 質問者数 | 質問時間 |
|-------|------|------|
| 水曜会   | 7人   | 365分 |
| 誠友会   | 4人   | 225分 |
| 公明党   | 4人   | 225分 |
| 市民連   | 4人   | 180分 |
| 新政クラブ | 1人   | 90分  |
| 無所属   | 3人   | 各30分 |



石口 智志 (60分) 水曜会

## 保育行政は

**問** ①第2子以降の保育料無償化発表後の申込件数は。

②こども誰でも通園制度の試行が始まったが本市の実施状況は。

③次年度の公立保育施設の体制整備に向けた保育士の拡充策は。

**答** ①4月1日の新規入所申込数は、令和6年度は前年度に比べ

3歳未満児で68件増加している。共働き世帯の増加や第2子以降の保育料無償化の影響から、次年度以降も3歳未満児の保育ニーズは高い水準で推移する見込みである。

②今年度、私立保育施設4施設で実施しており、6月から11月末までの利用者数は延べ907人である。利用希望日によっては定員を上回る申し込みがある施設もあり、ニーズは高いと受け止めている。

③国による配置基準の見直しなどに対応するため、広島県や岡山県内の保育士養成校の訪問など、新卒の保育士確保に努めている。

## 録画放送の視聴方法

各議員記事のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画が視聴できます。

また、[福山市のホームページ](#) → [福山市議会](#)

→ [議会中継](#) → こちらからも視聴できます。



喜田 紘平 (50分) 水曜会

## 市民病院の周産期母子医療センター開設への取り組みは

**問** 医師等の確保の見込みは。また人材育成の取り組み状況は。

**答** 産婦人科医と、新生児医療が専門の小児科医が着任した。看護師と助産師は職務経験者の募集などを行いながら計画的に採用しており、必要な人材確保に努める。



木村 素子 (50分) 水曜会

## ネウボラ政策は

**問** ①子ども未来づくり100人委員会での議論が今後どのように展開していくと考えるか。

②ネウボラセンターでは、どのような相談を受けるのか。

**答** ①委員会では16のグループに分かれ、子育てしやすい、子育てしたいと思えるまちをめざし、

議論を重ねてきた。出された意見は第2期福山市ネウボラ事業計画に反映することはもとより委員会終了後も委員やグループがそれぞれのやり方で取り組みを継続する。

②これまでの妊娠、出産や子育てに関する相談に加え、教育委員会が対応してきた不登校問題や、若者のひきこもりに対する相談も受けていく。支援の対象を、これまでの妊娠期から就学前までを中心としたものから、高校、若者にまで広げることや子どもの成長に合わせた相談にワンストップで対応することが可能となる。

職員の育成については周産期母子医療センターを設置する医療機関へ看護師や助産師を派遣し、的確な判断や高度な技術を身に付けるなど実践能力の向上を図っている。

## 放課後児童クラブの運営は

**問** 出欠確認等の現状は。また、アプリ等を活用する考えは。

**答** 保護者が連絡帳に記入した情報により把握しているが、急な変更があった場合の連絡手段に改善の余地がある。現在、新年度に向けアプリの活用を検討している。